

2022(令和4)年度 茅葺民家建物調査結果について

①目的

神戸市では、茅葺民家を神戸の歴史や文化を伝える重要な資源と見なしており、「歴史的建築物の保存活用の方針について」に関する答申（2018(平成30)年1月、神戸市都市景観審議会）を受け、保全活用の取り組みを推進してきました。

本調査は答申に基づく取組の一環として、前回調査（2015(平成27)年）からの状況変化を確認することを目的として実施しています。

②調査対象

神戸市による2015(平成27)年度建物調査並びにその後の調査等により存在が確認された茅葺民家840棟を調査対象としています。

③調査方法

茅葺民家に関する専門的な知見を持つ建築士等を調査員として2人1組で外観目視による現地踏査を行いました（現地調査の期間：2023(令和5)年2月～3月）。

④調査結果

茅葺民家の残存状況は下表のとおりになります（結果の詳細は2ページを参照）。

（単位：棟）

場所	①今回調査対象 (前回調査+追加発見分)			②2023(令和5)年 3月調査			増減 (②-①)		
	総数	内訳		総数	内訳		総数	内訳	
		茅	金属		茅	金属		茅	金属
北 区	726	93	633	678	65	613	▲48	▲28	▲20
西 区	106	10	96	97	9	88	▲9	▲1	▲8
他 区	8	2	6	7	2	5	▲1	0	▲1
計	840	105	735	782	76	706	▲58	▲29	▲29

※茅・・・茅がむき出し状態の茅葺屋根のもの

※金属・・・トタン等の金属板で覆われた茅葺屋根のもの

※主屋以外の付属棟（倉庫・納屋含む）も計上、付属棟が複数ある場合はその数だけ計上

※農村舞台、社寺関連施設は含まない

⑤結果のまとめ

- ・茅葺民家は依然として減少傾向にあり、全市で782棟と前回調査を下回りました。
- ・屋根の比較では、茅がむき出しの茅葺民家は減失が著しい結果となりました（残存率72%）。
- ・金属等で屋根が覆われた金属葺きの茅葺民家の残存率は高い結果となりました（残存率96%）。

(参考) 2022(令和4)年度 茅葺民家建物調査結果 (詳細)

(単位: 棟)

場所	今回 対象 ④ (①+②)	①2015(平成27)年 8月調査結果			②前回調査以降 新規発見分			③2023(令和5)年 3月調査結果			増減 (③-④)	
		総 数	内訳		総 数	内訳		総 数	内訳			
			茅	金属		茅	金属		茅	金属		
北	山田町	143	139	16	123	4	4	-	131	15	116	▲ 12
	有野町	77	75	7	68	2	-	2	71	4	67	▲ 6
	道場町	35	35	4	31	-	-	-	35	4	31	0
	大沢町	112	110	15	95	2	-	2	104	7	97	▲ 8
	淡河町	210	206	31	175	4	2	2	195	23	172	▲ 15
	長尾町	58	57	6	51	1	1	-	54	5	49	▲ 4
	八多町	86	86	3	83	-	-	-	83	3	80	▲ 3
	西大池	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鈴蘭台	5	4	3	1	1	1	-	5	4	1	0
西	伊川谷町	7	7	-	7	-	-	-	7	-	7	0
	岩岡町	10	10	-	10	-	-	-	10	-	10	0
	押部谷町	36	33	4	29	3	-	3	33	4	29	▲ 3
	神出町	17	17	3	14	-	-	-	14	1	13	▲ 3
	櫛谷町	26	25	2	23	1	-	1	23	3	20	▲ 3
	平野町	10	10	1	9	-	-	-	10	1	9	0
東灘	岡本	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
灘	大内通	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
須磨	白川	5	5	1	4	-	-	-	5	1	4	0
	妙法寺	1	-	-	-	1	-	1	1	-	1	0
垂水	西舞子	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	▲ 1
長田	大日丘町	1	-	-	-	1	1	-	1	1	-	0
計		840	820	96	724	20	9	11	782	76	706	▲ 58

※茅・・・茅がむき出し状態の茅葺屋根のもの

※金属・・・トタン等の金属板で覆われた茅葺屋根のもの

※主屋以外の付属棟(倉庫・納屋含む)も計上、付属棟が複数ある場合はその数だけ計上

※農村舞台、社寺関連施設は含まない